

地域の教育資源を活用した「地域課題探究型学習」

岐阜県多治見市	●活動名	●関係する学校名
	土岐川及びその支流の小さな自然再生	岐阜県立多治見高等学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	学校運営協議会	指定・設置日	令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	無
活動区分	—	—	地域課題解決学習	—	地域人材育成	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	—	地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数
ボランティアの数	延べ登録人数	7人	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有
参考URL	https://school.gifu-net.ed.jp/tajimi-hs/26_furusato.html					



●連絡先	岐阜県立多治見高等学校	☎ 0572-22-4155
------	-------------	----------------

●活動の概要・経緯
本活動は、本校生徒が地元を流れる川の生物多様性を豊かにすることを旨として、平成29年度より開始した。当初は自然再生活動の許可を多治見市より得ることが難しかったが、土木研究所の協力と活動の効果を科学的に証明することで実現した。その後も調査活動やイベントへの参画を通して、川に携わる方々との協力関係をさらに深め、魚類調査への協力も得られるようになった。さらに、本校の自然再生手法の研究結果が認められ、岐阜県より自然再生活動の許可を得て、令和2年度からは土岐川の支流の笠原川でも活動を行っている。本校は平成31年度より、岐阜県が推進している「ふるさと教育」の一環として、「地域課題探究型学習推進事業」の指定を受けている。地域連携による生徒の主体的な学びを推進するために「ふるさと協議会」を立ち上げ、学識経験者や自治体関係者からの指導・助言を受けながら、「地域で学ぶ」をモットーに事業を展開している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

本校は、活動の科学的根拠を示し、地域の理解を得ながら、国や地方自治体、研究施設、NPO法人、漁業協同組合等の様々な関係機関との協力関係を継続・発展的に築いており、本校の自然再生手法は、高校生のエコ活動を評価する「イオンエコワングランプリ」の全国大会で内閣総理大臣賞を受賞するなど、学術的評価を得ている。また、市の自然科学館のイベントにおいて、地元の小中学生にも本校の自然再生手法とその意義を広めており、学校だけでなく、地域ぐるみでの継続的な環境保全活動に貢献しているといえる。また、河川の生態系の評価や自然再生の手法について、本校生徒が関連学会で研究成果を発表し、研究者らと熟議を重ねるなどして学びを深めている。

【実施に当たっての工夫】

川底に手で運べる大きさの石を積み、川の流れを多様にして生物の住処を作るという、高校生だけでも継続可能な自然再生の手法を実施しており、関係機関の協力を得て、実験河川で石積みの形などを研究している。また、研究記録の蓄積や報告・発表資料の作成だけでなく、オンラインで研究者との意見交換を行うなど、ICTの活用を進めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

本校生徒が河川に関する団体を訪れ、生態系の保全について提案したり、環境保全活動に参加することで、協力関係を築いている。また、これまでの活動が認められてNPO法人やロータリークラブからも支援を得たり、「ふるさと協議会」を通じて関係各所との連携が進んだことにより、地域全体での取組に発展している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

本活動を通して、生徒たちが漁業協同組合や多治見市の環境調査にボランティアスタッフとして継続的に参加するなど、学校と地域との新たなつながりを構築できた。市の自然科学館では小中高生向けの自然再生イベントが年に4回行われ、本校生徒もスタッフとして企画・運営補助に関わっている。本活動に参加したすべての生徒が地元で生息する魚類を識別できるようになり、地元の河川やその特徴を知ること、地域への理解を深め、愛着をもつことにつながっている。また、本活動での研究手法は、「地域課題探究型学習推進事業」の他の取組にも生かされており、「ふるさと協議会」を核として、さらに地域の教育資源を活用した探究活動の深まりが期待できる。

●その他

主な連携・協力団体等：国土交通省庄内川河川事務所、岐阜県土整備部、多治見市、市立土岐川観察館、国立開発研究法人土木研究所自然共生研究センター、河川財団、多治見ロータリークラブ、NPO法人リバーサイドヒーローズ、川に学ぶ体験推進協議会、岐阜大学



自然再生活動前の魚類調査の様子



魚類の個体数調査の様子